

討 論 (1)

マ ラ ヤ 稲 作 の 概 況 に つ い て

座 長 : 馬 場 越 (農技研)

本岡(京大) : 東南アジア諸国の人口増加率と食糧生産増加率との関係を調べているが、計算ではマラヤでは過去10年間、米は年率6~8%の増加、タイでは3%以下、ビルマ、インドネシアでは停滞している。マラヤでのこの高率の原因は何か。

松島(農技研) : 栽培反別の増加、特に off season の面積が急にまじつある。また単位面積当りの収量増、品種改良、施肥量の増加、灌排水施設の改善なども考えられる。

本岡 : 栽培反別の増加といっても2%ぐらいではないのか。

杉本(東海近畿農試) : 年8%というのは大きすぎる。1950年を100とすると、'59年が128、'60年は139(豊作年)で、これからみると年3%ぐらいと考えられる。人口増加率は3.1~3.2%で、これの方が上回っている。

本岡 : それでは自給率の増大はどう説明したらよいのか。

杉本 : 統計数字に疑問がある。

本岡 : 技術援助にもかかわらず、自給率はむしろ低くなっているのではないか。戦前の30%から60%になったというのは、いずれにしても高すぎよう。

築林(農林省) : 統計調査の問題だが、一つは total を出す時には農家を通した方法では無理である。officer の業績になるので報告の数字が高めになる。たしかに水田面積や反収が非常にふえてきたとは思われない。また年間の変動も大きい。

藤原(東北大) : 東南アジア各国とも、統計数字の信頼性はあまり高くない。マラヤにおける米の輸入価格、卸売価格、小売価格を知りたい。

松島 : 小売価格は日本の一升 120円に対してマラヤでは60円ぐらいである。

杉本 : Pe Bi Fun は最下級で一升が70円、Kedah 米で 82円、タイからの輸入米を含む上質米で 92円位だった。

藤原 : 輸入価格、卸売価格などは京大東南アジア研究センターで調査されたい。

田中 (IRRI) : 農家の稲作、ゴム作をそれぞれ決定する根拠は何か。どちらがとくなのか。

松島 : 南部は水田になりやすく、北は水田になりやすく、水田になりやすい所で米を作っているのが現状である。

築林 : ゴムの方が価格もよく、農家はゴムの方に関心をもっている。一般にゴム地帯の方が生活程度が高く、水田地帯は貧しい。

田中 : マラヤの米とゴム、あるいはフィリピンの米とサトウキビとの関係で、稲作が進まなかった理由は、他の plantation crop に比して米が不利であったということが考えられるか。

築林 : 植民地政策が規制してきたとも考えられる。

藤原 : マラヤのゴムは世界的にみて、かなり有利と思われ、将来性もあるように考えられる。

座長 : 時間の関係で、一般的問題を再び総括討論の中で行なうことにする。

〔付 記〕

最近の資料による米の生産高、自給率向上と人口増加率との関係

最近10か年の生産量の伸びは著しく、付表のように1951~53年を100として1961~63年は147を示し5割に近い増加を示している。これは稲作振興政策におけるかんがい施設の拡充による開田や二期作田の増加と、1961年から始まった肥料補助政策などによる単位面積当りの生産量増加が主に関与しているものと推察される。

一方人口の自然増加率は1951~60年の平均で年 3.2%ときわめて高く、世界有数の人口増加率を示している。米の自給率は1950~52年の平均58%に対して10年

後の1960～62年の平均で65%と約7%向上を示している。これには1961年を契機として米の生産高がかなり向上したこともからんでいるが、米の増加率が人口増加率を上まわりつつある傾向とみてよからう。東南ア

ジアの諸国ではいずれも人口増加率が食糧増加率を上まわっているのが現状であるが、マラヤにおけるこの自給率の向上は稲作振興の反映とみられ、明るいきざしといえよう。(杉本 勝男)

付 表 米の生産高, 自給率および人口増加率の推移

年 次	水陸稲作付面積 ha	平均米収量 kg/アール	米 生 産 高 t	同 左 比 %	米自給率 %	人口増加率 %
1946	319,560	7.2	228,641			
1950	376,572	11.8	442,813		60	2.6
51	354,258	12.7	449,864	} 100	59	2.8
52	336,314	10.3	346,476		55	3.1
53	337,512	13.3	448,056		56	3.1
54	342,360	12.1	414,701		67	3.2
55	360,611	11.6	417,159		54	3.2
56	354,456	12.0	426,791	54	3.4	
57	362,805	13.7	495,381	59	3.4	
58	367,693	13.7	503,377	59	3.2	
59	374,023	12.0	450,037	55	3.2	
60	380,773	14.9	569,112	61	3.1	
61	385,710	15.9	614,650	} 147	66	
62	391,076	14.9	583,275		67	
63	399,797	15.9	633,791			

(注) マラヤ統計局, マラヤ政府年報の資料から算出。